

アカデミア メランコリア (若手のコラム)

東京大学大気海洋研究所 津田 敦

若手会員のコラムを作ろうと思う。70周年記念シンポジウムで、確か梅沢有会員から提案があり、幹事会でもすぐにはできる良い案だという話があった。大学などでは定員が毎年削減されるのに加え、職員の定年は延長され、高齢者が跋扈し、若者は益々厳しい状況に置かれている。まさにアカデミア メランコリア (憂鬱な学問) である。しかし 30 ~ 40 年前に「アカデミア メランコリア」という言葉が世の中に流布した時、確かに世相は抑うつ的ではあったが、状況を打破したいという「熱」のようなものがあつたように思う。このコラムで何が語られるのか想像がつかないが、できれば少しでもいいから「熱」のようなものを感じられたらと願う。

植松会長の方針である **6本の矢の一つは若手の育成やサポート** である。学会の幹事会 (会長、副会長、幹事) の議論でも窓口を作るべきとの認識で一致し、須賀副会長を担当とした。若手はどんどん、須賀副会長にものを言えばよいし、シニアも良いアイデアがあればこの窓口を利用すればよい。教育問題研究会は今回のナイトセッションの報告でもわかるように、この問題に前から取り組んできたし、昨年発足したブレークスルー研究会も若手の意見や要望を吸い上げる窓口であると宣言している。これらの活動を通じて、学会が若手の活躍しやすい場を提供できればと思う。私の考える育成やサポートは手取り足取りといったものではない。「自主」と「参加」をキーワードとしたい。まず、このコラムを通して学会活動に「参加」してほしい。または参加する提案でもよいかもしれない。筆者はリレー形式で選んでもらおう。筆者は次の筆者を決め (次は自分に書かせると直談判するのもあり)、原稿を私に送るところまでを面倒を見てもらう。条件を付けるとすれば、次の筆者は自分が所属する機関以外の 35 歳以下の会員であること。私は一字一句変えることなくそれを N L に載せよう。内容は自由。愚痴もよし、研究のアピールでも学会に対する提案でも結構であるが、コラムなので 1,000 ~ 1,500 字程度が恰好がよい。というわけで、次回からは私のような若くない筆者が登場することはない。中年 (老年?) のコラムも作ろうかな。さて、これからどんな物語が紡ぎ出されるかお楽しみ。Bon voyage.

広告募集

ニュースレターは学会員の配布される唯一の紙媒体情報誌です。
海洋学に関連する機器や書籍の掲載する広告を募集しています。
お申し込みは日本海洋学会事務局またはニュースレター編集委員長まで。

〒 277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5 / 電話・FAX 04-7136-6172 / メール tsuda@aori.u-tokyo.ac.jp

JOS News Letter

JOS ニュースレター
第3巻 第1号 2013年5月15日発行

編集 JOSNL 編集委員会

委員長 津田敦 委員 小守信正、根田昌典、田中祐志

〒 277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5

東京大学大気海洋研究所

電話 / FAX 04-7136-6172

メール tsuda@aori.u-tokyo.ac.jp

デザイン・印制 株式会社スマッシュ

〒 162-0042 東京都新宿区早稲田町 68

西川徹ビル 1F

http://www.smash-web.jp

発行



日本海洋学会
The Oceanographic Society of Japan

日本海洋学会事務局

〒 100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 2F
(株) 毎日学術フォーラム内

電話 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555

メール jos@mynavi.jp

※ 今号の表紙および記事には関係のない写真は、東京海洋大学
橋濱史典会員から提供いただきました。